

一月の手技材料

目白幼稚園 和田 實

例に因つて、一月中旬から、二月中旬迄の手技材料に就いて、考へて見ませう。

一月は何と云つても、冬の最中でせう。日本中の多くの地方では雪に埋もれて居る期節であります。従つて、雪の觀察雪の景色は、子供の興味を牽ぐでせう。雪の降り頻る日に、暖かき部屋の中で、雪をおもちやにすることは、幼児の最も喜ぶ觀察的遊戯であります。此時、兎雪だるま、雪の燈籠、ち山、隧道、など色々面白細工が出来ますが、雪は粘土の様に作り直しが、容易すくは出来ないので、充分な手工材料とはなりません。巧みな燈籠や兎などは何うしても先生の細工であ

ります。併し先生の細工するところを見せる丈でも結構でせう。又細工の仕悪いことを經驗させ、一度堅めた雪が子供の力では中々崩れないと云ふことを實驗するだけでも、よい觀察でありませう。次には、雪の製作物を圖畫に表現することも、よい遊びであります。白い紙の上に白い雪だるまを描くことは、一寸子供の考への及ばないことでせう。背景を鼠色か灰色か又は黒などで、塗りつぶして行く中に、だん／＼と雪だるまが見えて來ることは面白い手際です、同様にして雪の景色が出来るでせう。雪の積つた家、雪を冠ぶつた木、雪の富士山など、夫々同様な筆法で出来ませう。一

二度先生が書いて見せることで、子供は充分呑み込んで、眞似して行くでせう。次には、雪景色の立體的表現も面白いてせう。談話の時にした雪中のお話とか年末にあつたクリスマススのサンタクロイズの模様などを、紙の家や木で、綿を雪にして表現すると中々面白いものが出来たります。出来上つた場面を一つの舞臺として、近來、おはよりの人形芝居も出来るでせう。斯様にして、雪の觀察に基いた手技手工材料は色々工夫することが出来ます。

次に、雪に因んで、綿細工が面白いと思ひます。青梅綿と針金を材料として、色々の形體を模造するのですが、最初に出来るものとしては、みかんりんご、なし、などの様な圓形なもので、凸凹や肢體のないものでなければなりません。先づ針金を適當に眞棒にして、之に綿を巻き付け、だん／＼に大きくして、りんごやみかんの形にするのです。

形が出来たらば刷毛で薄糊を表面に塗り付けて、乾かすのですが、是は子供には一寸困難かも知れませんが、形が出来上つたものへ、先生が塗つて遣つたらばよいと思ひます。能く乾いたらば、更に薄糊に適宜に繪の具を入れて塗るのです。是も、子供の仕事としては中々困難でせうが、用具や材料が適當に準備されたならば随分、幼兒にも出来ると思ひます。出来上ると中々美しく、愉快なものであります。子供に出来る範圍としては斯んな程度でせうが、少し器用な子でしたら、人や犬の形が出来たらうと思ひます。上手に出来ない迄も、先生の手工を見眞似して、少し進んだ細工することもよいでせう。

遊園での遊びの充分に出来ない冬の手技としては、何うしても、室内の机上で、細かなものを扱ふことになりませんが、是も止むを得ないことでせう。其材料としても自然物の少い時期ですから、

紙類や麥藁などの主として使はれるのも、是非ないことです。粘土は此時期に最も相應はしい細工ですが、子供の手が寒さで、荒れて居る時なので土いたづらも、何うかと思はれます。夫れで、此時期に、最も適當なものとしては新粉細工だらうと思ひます。或は油粘土、ゴム粘土なども、適當と思ひますが、前者は材料費が嵩みますし、後者は色付けが自由に行きません。是等の點で新粉細工は最も自由な都合のよいものであります。

新粉細工。町の場合などに行くと街頭に小さな屋台を下ろして、數名の子供に取り巻かれながら色々な細工、をして、見せて居るのを見ますが、面白いもので、見て居る子供は手工欲に動かされて、「唯新粉」を買はずには居られなくなるものがあります。此「唯新粉」と云ふのが、今、私共の幼児に與へやうとする手工材料であります。お月見のおだんごと同じ様な仕方で作つた新粉を適當

に練つて、之に染料即染粉を適當にまぜて、更によく練れば自由な色が出来ます。練ると云つても唯、兩手で、こねる丈ですから、容易く材料が出来ます。之を適當に子供に配當して、別に、手に付かぬ様にする爲めの油(重に、びん付油)を少しづつ分配すればよいのです。油を少しづつ手に付けますから、寒さで手が荒れて居る子供にも別に苦痛にはなりません。細工の後も紙で手をよく拭けば油は落ちますから、別段洗はなくても、差支はありません。手を拭くには新聞紙を用ゆると一層能く油がとれます。

次には凧作りです。何と云つても一月は凧の季節です。當今は電柱や電線の爲めに凧を上げる場所は、非常に制限されましたが、夫れでも、子供の遊びとしてはよいものですから、事情と場所の許す限り、凧上げさせてやりたいと思ひます。幼稚園でも、此傾向を奨励する一助として凧造りを

したいものです。子供に出来る凧としては「いか凧」と云つて居るのが、一番簡單でよいと思ひます。其方法は先づ半紙一枚をたてに取ります。それから左右の側邊の向ふから手前へ三分の一の所に印を付けます。次に、上下の兩邊の中央に印を付けます。これで各邊に四つの印が出来ました。此四點を順次に隣同志を結び付けると相隣れる二邊の等しい菱形が出来ます。是れが「いか凧の本體」です。まはりの四つの角を切り取ると凧の形になります。次に細竹を適當の長さに切つて、此凧の相對する角を通して、十文字に紙の裏から、貼り付けます。糊が乾いたら横の骨の兩端から、糸を張つて、骨を弓なりに曲げます。次に骨の交叉點と縦の骨の下から三分の一位の所とに糸目を付けて之を適當に結びます。次に、縦の骨の下の端に尾を付けます。是は半紙を一寸位の巾に長く切つて三尺位の長さにして付けます。是で凧は出

來上りましたが、此凧は長い糸で上げると云ふ譯にも、行きますまいから、三尺ばかりの糸を糸目の端に結び、糸の端を更に、二三尺の棒の先に結んで、子供に持たせて、遊戯室の様な所を疾走させると、結構凧は上つて面白いのです。横の張の糸を張る前に、凧に畫を書かせても面白いでせう又、尾の紙を色紙にしても面白いでせう。一日は是れで遊べます。

梅と鶯、次には梅の花です。是は觀察實驗から始めて、梅の花の描き方、梅の花形の造花、盆栽の様な造花も出来ませう。圖畫や手工には可なり澤山な材料がある筈です。夫れから鶯です。是は出来たらば能く、鳴くのを暫時借りて來て、其鳴き聲を聞かせてやるのもよいと思ひます。是も圖畫の材料となり新粉細工の材料として恰好です。更に、綿細工で、造ることが出来れば尙一層結構ですが、是は一寸困難でせう。次には、是等の

斷片的細工を綜合して鳥籠造りをしたらよいと思ひます。

鶯籠。先づボール箱の明いたのを一づゝ用意して三方を千代紙で適宜に貼る。左右の二方には適宜な窓を明けても宜しいでせう。前は「しご竹」で鳥籠の縦格子を入れる。中には適當な所に鳥の止まる止まり木を用意し、餌箱、水箱も適宜紙で造つて入れる。籠の用意は是で出來ました。次に、鶯は塗り繪させたものを切り抜かせて付けてもよし、新粉細工でもよし、綿細工で出來たものなら尚よし、であります。鳥籠は或は豆細工で全部造つてもよいと思ひます。却つて、此方が子供の思ひのまゝに出來るかも知れません。

以上、雪細工、綿細工、新粉細工、並に之に關連して圖畫、折り紙、厚紙細工、豆細工、造花細工等色々と思ひ付くまゝに工夫して行くと二月の中旬迄は充分に遊べると思ひます。造花細工など

も、大人のする様な立派なものを造るのが目的ではありません。材料も必ず人工物を全部使用しなければならぬとは限りません。花を全部模造したとしても枝は自然物を其まゝ使つてもよし、又花にしても花瓣を紙で造つたら莖は自然物を其まゝ使つてもよいと思ひます。職業學校で教ゆる造花術を其儘應用するのではないのですから、能く誘導教育の本趣のある所を考へて、子供の出來る範圍内で、一寸思ひ付のものを工夫することを心掛ければなりません。幼兒をしてために手足を働かせ思ひ付の工夫を直に實現することに因つて趣味や模造、工夫の興味を發展させて行く所に、幼兒教育の根柢があることを忘れてはなりません。